

「益城町人口ビジョン」の概要

1. 人口ビジョンとは

- ✓ 持続可能な地域社会の実現に向けて、出生率、死亡率、移住の流れなど、人口に影響を与える様々な要因を考慮した上で、人口の将来展望を描き、それを実現するための政策を示す
- ✓ 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において人口ビジョンを作成することは、地域の活性化や持続可能な発展を目指す上での出発点
- ✓ 益城町では現行の第2期総合戦略の計画期間が2024年度で終了となることから、2025年度を初年度とする第3期総合戦略を策定することを踏まえ、社会情勢の変化や周辺市町村等での環境変化等を踏まえた人口ビジョンを策定

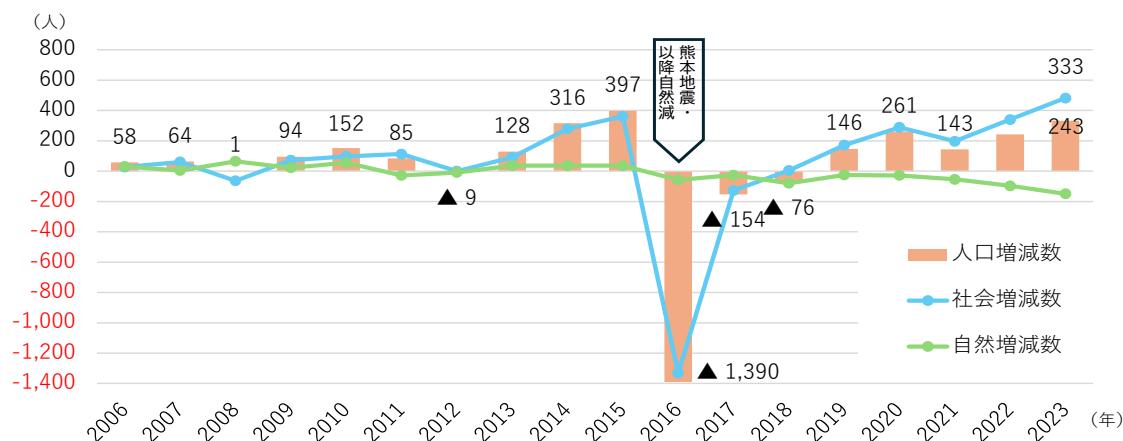
2. 益城町の人口動向

- ✓ 熊本地震の影響もあり、国勢調査結果からは2015年から2020年にかけて減少
- ✓ しかしながら、住民基本台帳に基づくと、自然増減（出生－死亡）数は、2016年以降減少に転じる一方で、社会増減（転入－転出）数は、2018年以降増加
- ✓ 自然減を上回る社会増の結果、本町では人口増加となっており、2024年10月末時点での住民基本台帳人口は34,121人
- ✓ 年齢3区分の構成比率では、老年人口（65歳以上人口）の割合が多くなり、生産年齢人口（15～64歳人口）の比率が低くなる高齢化が進行
- ✓ 合計特殊出生率は全国平均、熊本県平均と比べて高く、2018－2022年では1.84
- ✓ 直近5年間の転入者属性（性・年代）は、**男女とも20歳代～40歳代の転入が多い**
- ✓ 一方で、直近5年間の転出者属性（性・年代）も**男女とも20歳代～40歳代の転出が多い**

益城町の人口の推移（資料：各年国勢調査）



自然増減数と社会増減数からみる人口増減推移（資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査）

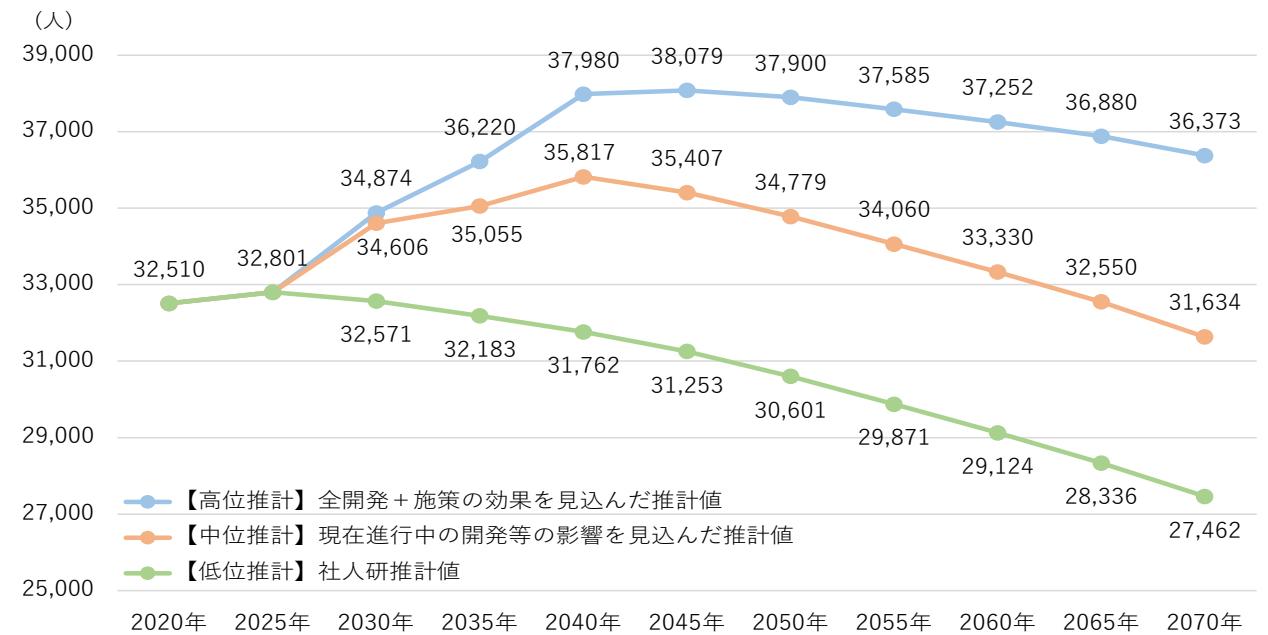


3. 将来人口の推計

(1) 推計パターン

- ①低位推計：「国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）」が令和5年度に行った、最近の人口変化の傾向が将来にわたって継続すると仮定した場合の推計人口
- ②中位推計：現在、益城町で進行している住宅地開発（益城台地土地区画整理事業等）が順調に進行した場合に想定可能な推計人口
- ③高位推計：②に加えて、木山仮設跡地等での住宅地開発も進み、さらに町独自の施策によって社会増（転入による増加）効果が発現すると考えた場合に想定される推計人口

(2) 推計結果



本町では、現在の人口の推移及び住宅開発等の動向を踏まえ、

2040年の人口38,000人を目標として設定します

★目標人口の達成に向けて

(1) 転入増に向けた住宅地開発の確実な推進

- ✓ 現在進行している住宅地開発に加えて、現在検討が進んでいる木山仮設跡地等での住宅地開発の確実な推進が不可欠。町としても円滑な事業推進に向けて開発事業者と連携して取り組むことが必要

(2) 若い世代の方の流入促進と流出抑制

- ✓ 38,000人ビジョンの達成には、**若い世代の流出を防ぐ**、または進学や就職等で町外へ転出して、**いずれ帰ってきたいと思える町になるような対策が急務**
- ✓ 加えて、**30代前半から40代後半の子育て世代が、住みたい（住み続けたい）と思う魅力を創出し、若い方の流入を促進するとともに、流出を抑制することが重要**